

新町家のすすめ 建築実例 物件情報シート

建物名：光の家、集える庭

建物写真



建物概要

行政区：京都市中京区

建築年：2010年

敷地面積：140.15㎡

建築面積：(任意)

延べ面積：198.85㎡

構造：木造

階数：3階

本体価格：(任意)

建築主：S様

設計者：株式会社中藏、建築設計事務所 イシダ・ハタナカ スタジオ 施工者：株式会社中藏

設計コンセプト・ポイント

中京区の二条城の近く、古い建物が多く残る地域に建てられた「現代の京町家」と呼ぶにふさわしい新築住宅です。南面が道路に面し、また残り三方を隣接する建物に囲まれるという立地条件から、建物を口の字型にして、中心に中庭を設けるプランに。そして、その中庭の上方は大きく開けているため、日中はたっぷりの光を取り込んで各室に届ける装置にもなってくれます。中庭は周囲の視線を気にすることなく庭空間を楽しむことができるプライベートなスペース。それだけでなく、二世帯住宅であるこの家のそれぞれの世帯を時に緩やかに仕切り、また時に自然とつなげる「集える庭」の役割も担っています。外観は左官壁や格子、長くせり出した軒など、町家の伝統的な意匠を継承した、気品の漂う、また、周囲の町並みにも美しくとけこむ佇まいです。その一方、一歩中へ足を踏み入れると、従来の町家の印象をくつがえすうれしい驚きが。高断熱高気密工法と京町家の知恵をいかした光や風の通り道が考慮された室内は、暗い・寒い・ガマン、といった、従来の京町家のイメージとは無縁なあたたかい光に満ちています。

※掲載されている建築実例は、新町家パートナー事業者が考える京町家の知恵を取り入れた住まいの事例です。

該当する指針の欄に、具体的な内容を記入してください(取り入れていない指針の欄は空白で可)

指針1 まちに暮らす ～隣地の状況を踏まえて建物配置を計画する～



- ・隣地との関係から妻側には開口部を設けず、道路のある南側と中庭に面してのみ開口部を設けています。隣家と密接する町中の暮らしの気遣いです。(指針1-2)
- ・パッシブデザインを取り入れた設計手法により夏期の日射遮蔽を考えた深い軒は、京町家らしいファサードを形成。さらに、建物を道路からセットバックさせることで軒下空間ができ、道路の空間にゆとりをあたえる役割を担っています。(指針1-3)

指針2 場所になじむ ～地域特性や歴史を踏まえて設計する～



- ・立地するのは二条城の南側の、周囲には京町家も数多く残っているエリア。間口いっぱいには設けられた通り庇は、そのような古い家々との連続性を生み出します。軒裏を厚さ30mmの杉材とすることで、準防火地域でも木の現し仕上げとしました。通りに面した一階の窓の格子や落ち着いた色調の左官壁も、周辺の景観との視覚的な調和を念頭に。(指針2-1)
- ・街並みのスケール感も考慮して、3階をセットバックすることで、表からは2階建てに見えるように。(指針2-2)
- ・外観の趣のマイナス要因となってしまうエアコン室外機や給湯器などの設備機器は、表からは見えない位置に設置することで風情を保つように気配りを。(指針2-3)

指針3 季節や自然を楽しむ ～季節や自然を楽しめるよう工夫する～



- ・敷地の中央に大きく設けた中庭と、そこへ玄関からアプローチする通り庭がこの家の最も特徴的な部分。訪れた方は、御影石の石畳を通り抜けた先に広がる明るい中庭の光景に、みな一瞬足が止まります。また、二階も含めた各居室から眺めることができるこの中庭には、あえて冬は落葉する樹木を植えることで、四季折々の表情を家全体に伝えてくれます。(指針3-1)
- ・通り庭から中庭への空間の広がりには「風の通り道」も兼ねています。そして、中庭に面した各居室の木製サッシは掃き

※掲載されている建築事例は、新町家パートナー事業者が考える京町家の知恵を取り入れた住まいの事例です。

出し窓になっているため、開放することで室内へ風を導入するのも自在です。また、町家の風情を持ちながら、設計手法としてパッシブデザインを用いているのもこの家の特徴。コンピュータによるシミュレーションで、一年を通した日射取得や日射遮蔽が計算されているため、常に快適な温熱環境のもとで暮らすことができます。(指針3-3)

指針4 大切に使う ～大切に長く使い続けられるよう工夫する～



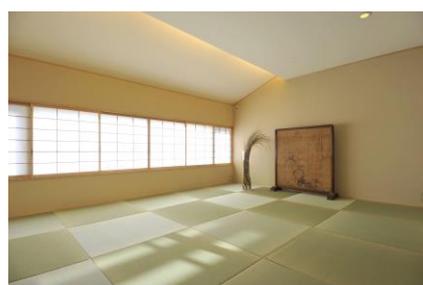
・構造には、木造ラーメン構法のひとつである「SE 構法」を採用。ラーメン構法とは、壁でなく柱と梁で建物を支える構法です。そのため、家族構成の増減や暮らし方の変化に応じて壁を撤去したり自由に動かすことができ、いつの時代でも暮らしやすい空間にアレンジできるのがメリット。そして、SE 構法は許容応力度計算により地震や台風への強さも証明された構造。「光の家、集える庭」は、100 年を超えて住み継いでいくことを前提にした邸宅です。(指針4-1)

・外観だけでなく、内装の仕上げにも左官仕上げがふんだんに使われているのが特徴。さらに、木製のサッシや無垢材のフローリング、天井も木で仕上げるなど、自然の素材に囲まれた暮らしができます。これらの自然素材が備えている湿度や光、音を和らげる機能は、住む人の心をやさしく落ち着かせてくれます。(指針4-2)

指針5 和の技を感じる ～伝統技術・技能をいかす～



・外観の人の目に近いところについては、特にこだわりを。左官壁仕上げや軒天の木組みに木製建具、洗い出しで仕上げた犬走り、そして御影石の石畳など、職人さんの手のあとを感じる仕上げが自慢です。(指針5-1)



・内観も、壁の多くを弊社が得意とする左官壁で仕上げ、木製建具を使うなど、職人さんの技術がいたるところに。また、伝統的な障子を効果的に用いることで、周囲からの視線を遮りながら柔らかい光を室内に取り入れる工夫も。陽当たりの良い二階南側の居室は畳敷きにして、子どもたちの遊び場になったり、親世帯のくつろぎの場になったりと、多目的に使えるのも特徴です。(指針5-2)